

# 倫 理

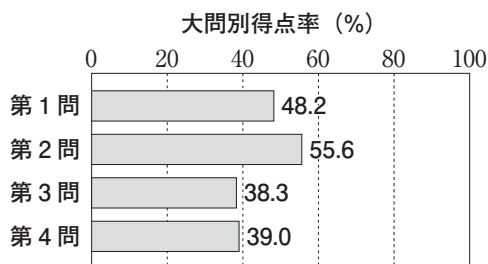
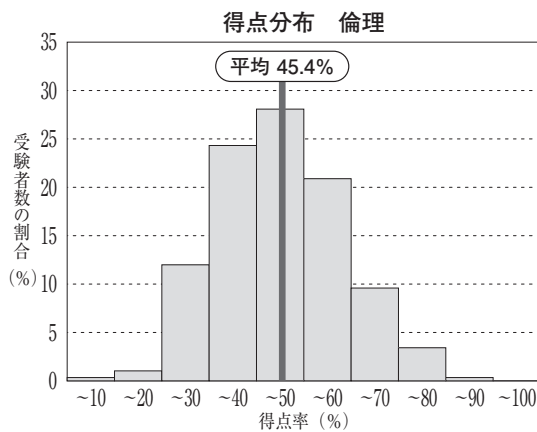
後回しでいいという気持ちではいけない。最初の一步を踏み出そう。

## I. 全体講評

今回の「第1回2月センター試験本番レベル模試 倫理」の平均点は、45.4点であった。この点数は、前年の2月模試とほぼ同じである。前年の受験者は、ここから大きく点数を伸ばしていった。今度は、この模試を受験した皆さんが、それに続いてほしい。

例年、第1回は、第1問の青年期・現代社会分野の得点率が高く、第4問の西洋近現代思想分野が低い、という傾向になる。今回もおおむねそのような結果となった。

この模試で倫理を受験した皆さんのほとんどは、その難しさに驚いたことであろう。倫理という科目は、皆さんが思っているほど楽な科目ではない。しかし、真剣に学習を進めていけば、必ず結果はついてくる。以下の大問別分析を十分に活用して、着実な一步を踏み出してほしい。



## II. 大問別分析

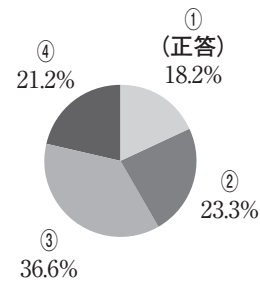
### 第1問 青年期・現代社会分野

趣旨読解問題は必ず正答しよう。

第1問の得点率は48.2%。問1 [1]から3問連続で知識を問う問題が出題されているため、何の準備もしてこなかった受験者は苦勞しただろう。しかし、準備をしていないのは現段階では仕方のない面もある。受験直前の段階ではこれらの問題に正答できるようにしてほしい。

また、センター試験の倫理では例年、問8 [8]のような資料文読解や、問10 [10]のような本文の趣旨読解問題が出題されている。この種類の問題は読解力をつければ正答可能であるから、模試や過去問で演習を積み重ね、必ず正答できるようにしよう。

### 問2 [2] 選択肢の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は100%にならないことがある。

正答率は18.2%と、大問中で最も低かった。正答である①の選択率が最も低いという結果であった。青年期分野は思想家について問うと明らかに正答率が落ちる。他分野と同様、思想家の思想内容を丁寧に押さえよう。

### 第2問 源流思想分野

倫理全体の土台となるのが源流思想分野である。

第2問の得点率は55.6%。正答率が50%以上の問題は6問であった。今回の第2問は基礎的な事項から出題されている問題が多いとはいえ、現段階

ではよくできた方であろう。この分野は日本思想分野や西洋近現代思想分野へとつながっていく大事な分野であるから、土台（源流思想分野の知識）を確実に固めることを最優先としよう。この中で突出して悪いのは問2 [12]で、正答率は16.1%であった。①を選択した受験者が39.0%で、イを正文としていた。イは文章自体は正しいが、自然哲学者なので時代が異なる。設問の設定を確認するのはセンター試験の基本動作である。欠かさず徹底しよう。

### 第3問 日本思想分野

選択肢や資料文の文章をしっかりと読もう。

第3問の得点率は38.3%。第2問とは一転して、全般的に正答率は低迷した。特に、古代における仏教についての問1 [20]は正答率33.2%、資料文読解の間8 [27]は正答率が12.7%であった。問1 [20]は、誤りの選択肢である②の選択率が58.6%であった。これを選択した受験者は、奈良時代の仏教は、朝廷の下で国家を鎮護するという役割を担っていたというのが原則という認識でいけばよいだろう。問8 [27]は、誤りの選択肢である③の選択率が48.6%となった。自然環境と人間との間に風土が影響を与えるという立場は、資料文の冒頭で「誤解」とされているため、③は誤りとなる。多少時間をかけてもよいので、選択肢の文章と資料文に相違がないかを一つ一つ確認しよう。また、鎌倉新仏教についての問2 [21]も、正答率は36.3%と低迷した。この問題では、アの選択肢ですでに37.0%の受験者が誤っていた。『法華経』という明確な誤りが含まれていることを見抜けるようになってほしい。多くの受験者にとって、今回の第3問は惨憺たる結果になったかもしれない。しかし、これから学習を積み重ねていけば、第3問の選択肢の文章すべての正誤を判定できる段階に至る。過度な不安は不要である。

### 第4問 西洋近現代思想分野

まずは教科書を読み、基礎知識を増やしていこう。

第4問の得点率は39.0%。資料文読解の間2 [30]と本文の趣旨読解問題の間8 [36]が正答率50%台であっただけで、知識が問われた他の問題の正答率は高くても40%台であった。なかでも、問6 [34]や問7 [35]は選択率が分散していることから、自信をもって選択した受験者はあまりいなかったことが

推察される。倫理はほとんどの受験者が未習であろうから、この時点ではこの結果になるのも致し方ないだろう。西洋近現代思想の用語は多彩で難解であるから、一つ一つ丁寧に理解していきたい。

## Ⅲ. 学習アドバイス

### ◆趣旨読解問題に注意しよう。

センター試験の倫理では例年、各大問の最後に趣旨読解問題が出題されている。これはそれぞれの大本問の本文の趣旨を答えるものであるが、今回の模試では特に第1問の結果が芳しくなかった。趣旨読解問題は、誤りの選択肢に明確な誤りのポイントがあり、落ち着いて本文を読み、各選択肢の文章と比較して正誤を判定していけば正答にたどり着けるようになっている。読解力を磨き、落ち着いて取り組もう。

### ◆問題と解説はまとめておく。

模試の問題と解説は各回まとめてとっておくこと。センター試験の倫理は他の科目と比較して選択肢の文章が長く、正誤を判定する実践的なトレーニングが不可欠である。東進模試は、センター試験本番と同じ形式・同じレベルの、またとない実戦教材であるから、直前になって取り出して、もう一度解き直せるよう整理しておいてほしい。

### ◆次回の模試に向けて。

倫理は主要科目とは違ってそれほど時間を割くことができない。それだけに、2か月ごとに実施される「センター試験本番レベル模試（全国统一高校生テスト）」をベースとして学習計画を組み立てることが重要である。毎回、「今回はこの分野を固めて確実に得点を取る」といったように、具体的に課題を設定して学習を進めていくのが効率的だろう。また、できなかった問題はしっかりと復習して二度と間違えないようにしてほしい。